

平成30年4月1日付の組織改正及び人事異動について

平成30年3月27日

第2期ひょうご教育創造プランの基本理念「兵庫が育む ところ豊かで自立した人づくり」のもと、学び、育て、支えるひょうごの教育の実現をめざして、今日的教育課題の解決や兵庫の特色ある教育を積極的に推進するため、機動的で効率的な体制を整備するとともに、知事部局、学校、市町教育委員会との人事交流を積極的に行うなど、適材適所の職員配置を行う。

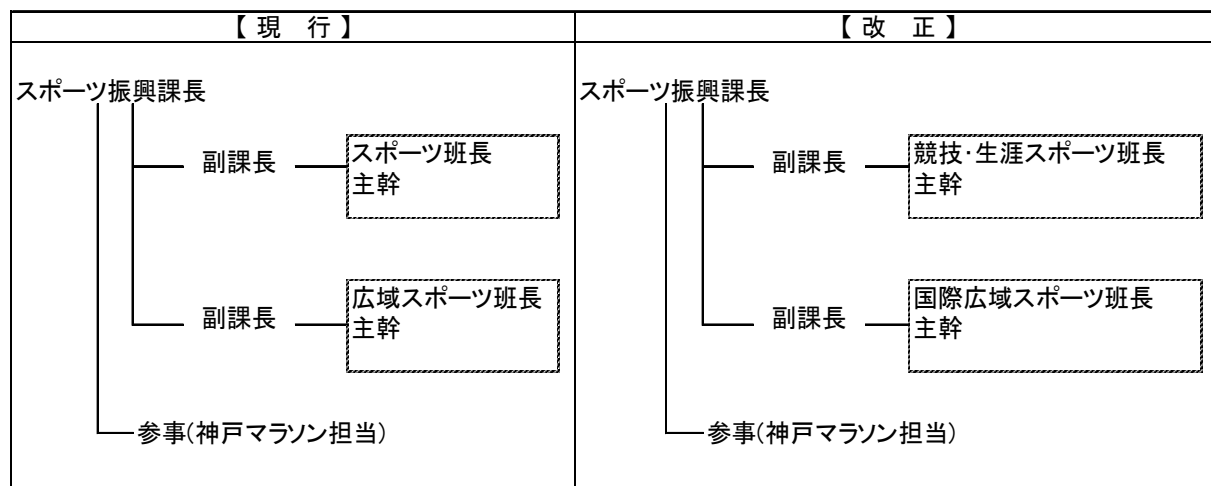
今回の組織改正及び人事異動の特色は次のとおりである。

1 組織改正

(1) スポーツ振興体制の充実

「東京オリンピック・パラリンピック」や「ラグビーワールドカップ」の関連施策に加え、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催に向けた機運醸成及び開催準備などの国際的、広域的なスポーツ施策を着実に推進するため、スポーツ振興課に「国際広域スポーツ班」を設置する。

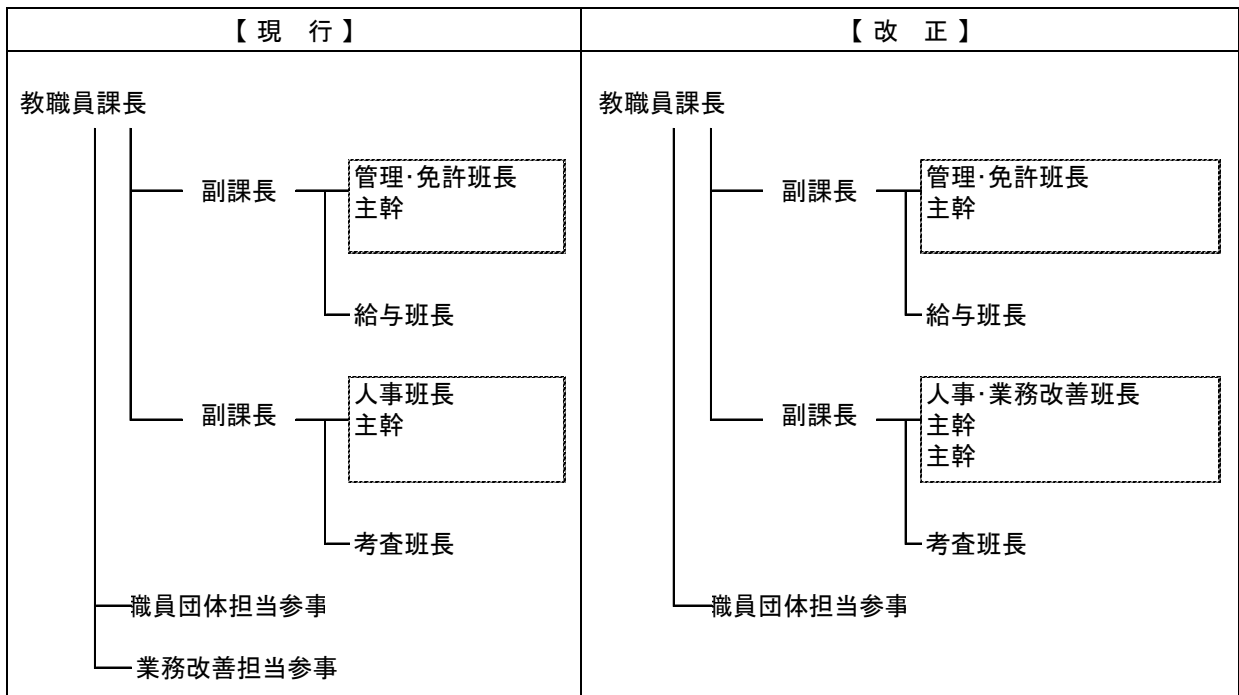
【スポーツ振興課】



(2) 教職員の勤務時間の適正化の推進

教職員の勤務時間適正化推進プランに基づく取組を着実に推進するため、教職員課に「人事・業務改善班長」を設置する。これに伴い教職員課業務改善担当参事(平成28年度に2年間のタスクフォースとして設置)は廃止する。

【教職員課】



(3) 特別支援教育の推進体制の充実

特別支援教育に関する教職員研修、障害児に関する教育相談などの充実を図るため、特別支援教育センターに課長を設置し体制の強化を図る。

(4) その他学校関係

① 県立学校

「県立高等学校教育改革第二次実施計画」に基づき、学びたいことが学べる魅力ある学校づくりを進めるため、専門学科の設置等を行う。

ア 専門学科の設置（2校）

姫路西高等学校 国際理学科（理数に関する学科）

武庫荘総合高等学校 福祉探求科（福祉に関する学科）

イ 職業学科を主とする学科の改編（3校）

篠山産業高等学校 飾磨工業高等学校 但馬農業高等学校

ウ 特色類型（普通科）の設置（1校） 生野高等学校

エ 特色類型（普通科）の改編（1校） 伊和高等学校

② 市町立学校

ア 小学校 4校廃止（姫路市立白鷺小学校、宍粟市立神戸小学校、宍粟市立染河内小学校、淡路市立育波小学校）

1校新設（宍粟市立はりま一宮小学校）

イ 中学校 1校廃止（姫路市立白鷺中学校）

ウ 義務教育学校 1校新設（姫路市立白鷺小中学校）

2 人事異動

(1) 異動規模

異動数は昨年に比べ、事務局はほぼ同数、県立学校教職員・市町立学校教職員は退職者増の影響などにより増加し、異動総数は昨年を上回った。

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度
事務局職員等	344名	352名
県立学校教職員	1,901名	1,794名
市町立小・中・特別支援学校教職員	4,626名	4,534名
合 計	6,871名	6,680名

(2) 人事異動の特色

① 事務局関係(役付職員等)

ア 人事交流の促進

本庁と地方機関との人事交流に加え、学校、知事部局、市町教育委員会との人事交流を積極的に行ったが、昨年(177名)一昨年(169名)の異動規模が大きかったことから昨を下回った。

(人事交流の状況(役付))

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度
本庁と地方機関の交流	35名	45名
県立学校等との交流	45名	55名
知事部局等との交流	42名	46名
市町教委(学校含)との交流	36名	31名
計	158名	177名

イ 女性所属長の登用

県立図書館長に 阪神南県民センター長 岡田 由美子
 福利厚生課長に 歴史博物館館長補佐 前川 浩子
 特別支援教育課長に 阪神特別支援学校教頭 小俵 千智
 を登用するなど、女性の管理監督職への積極的登用を図った。

《事務局役付職員の女性登用状況》

職名	平成 30 年度		平成 29 年度		増 減	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
8 級(課長級)	5/33	15.2%	4/34	11.8%	+1	+3.4%
7 級(副課長級)	9/48	18.8%	8/48	16.7%	+1	+2.1%
6 級(班長・主幹級)	13/82	15.9%	15/79	19.0%	△2	△3.1%
計	27/163	16.6%	27/161	16.8%	0	△0.2%

② 県立学校関係(校長級)

ア 退職者・登用者の総数

退職者 45 名、登用者 45 名(校長総数 164 名(副校長含む))

イ 本庁課長等からの登用

様々な教育課題の解決を図るため、教育行政経験があり、教育全般に対する幅広い見識を有した経験豊富な本庁課長等 7 名を登用した。(298 名)

(本庁課長等からの登用)

伊川谷高等学校長へ	: 川崎 芳徳 (55) スポーツ振興課副課長から
阪神特別支援学校長へ	: 塚本 久義 (56) 特別支援教育課長から
篠山東雲高等学校長へ	: 板羽 茂雄 (55) 丹波教育事務所副所長から
明石清水高等学校長へ	: 石角 正徳 (55) 警察学校参事兼副校長から
姫路商業高等学校長へ	: 臼井 研二 (55) 県立山の学校長から
豊岡高等学校長へ	: 今井 一之 (56) 教職員課長から
津名高等学校長へ	: 魚井 和彦 (54) 人権啓発協会次長から

ウ 県立学校の活性化を進めるため適材適所の配置

特色ある学校づくりや専門高校及び専門学科の充実を図り、学校の活性化を推進するため、適材適所の配置を図った。

(適材適所の配置)

神戸商業高等学校長へ	: 西村 直己 (56) 長田商業高等学校長から (商業・情報教育について高い専門性を有す)
西宮香風高等学校長へ	: 石川 照子 (57) 芦屋高等学校教頭から (多部制経験を有し、不登校生徒への対応に精通)
阪神特別支援学校長へ	: 塚本 久義 (56) 特別支援教育課長から (特別支援教育について高い専門性を有す)
加古川南高等学校長へ	: 原 実男 (58) 神戸甲北高等学校教頭から (総合学科に長年勤務し、高い専門性を有す)
豊岡高等学校長へ	: 今井 一之 (56) 教職員課長から (豊富な行政経験を有し、地域の事情にも精通)

エ 若手の登用

52 歳(最年少: 昨年は 53 歳が 1 名)の校長を 1 名(県立豊岡聴覚特別支援学校長 高橋 幹夫 県立姫路特別支援学校教頭から)と 53 歳の校長 2 名(県立龍野北高等学校長 栗林 秀忠 県立龍野北高等学校教頭から、県立淡路高等学校校長 若松 明子 県立のじぎく特別支援学校教頭から)を登用した。校長登用者の平均年齢は、56.0 歳となった。(2956.1 歳)

オ 女性の登用(教頭・事務長を含む)

女性校長を8名、女性教頭を8名登用した結果、校長23名、教頭22名、合計45名となった。(昨年比同数)

女性事務長を16名登用した結果、63名となった。(昨年比10名増)

(管理職の女性登用状況)

年度 職名	平成30年度		平成29年度		増減(③⑩-②⑨)		参考②⑤
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
校長	23/164 (8)	14.0%	22/164 (5)	13.4%	+1 (+3)	0.6%	9.8%
教頭	22/211 (8)	10.4%	23/211 (5)	10.9%	-1 (+3)	-0.5%	10.8%
事務長	63/163 (16)	38.7%	53/163 (6)	32.5%	+10 (+10)	+6.2%	22.1%
計	108/538 (32)	20.1%	98/538 (16)	18.2%	+10 (+16)	+1.9%	13.9%

()は当該年度女性登用者数

(校長昇任)

長田商業高等学校長へ	: 笠谷 知代 (56)	伊丹西高等学校教頭から
神戸聴覚特別支援学校長へ	: 森村 美佐 (56)	姫路東高等学校教頭から
西宮南高等学校長へ	: 前田 容子 (58)	川西明峰高等学校教頭から
西宮香風高等学校長へ	: 石川 照子 (57)	芦屋高等学校教頭から
阪神昆陽特別支援学校副校長へ	: 柏 早苗 (56)	こやの里特別支援学校教頭から
北はりま特別支援学校長へ	: 川口あづさ (56)	姫路しらさぎ特別支援学校教頭から
浜坂高等学校長へ	: 仲島 尚子 (57)	豊岡総合高等学校教頭から
淡路高等学校長へ	: 若松 明子 (53)	のじぎく特別支援学校教頭から

③ 市町立学校関係(校長級)

ア 退職者・登用者の総数

退職者207名、登用者205名(校長総数856名)

※差の2は学校統廃合、義務教育学校新設等による。

イ 校種間の異動の推進

小学校と中学校の連携を強化し、不登校や生徒指導上の諸課題に対応するため、小中学校間の校長の人事交流を積極的に行ったが、昨年(52名)一昨年(55名)の異動規模が大きかったことから昨を下回った。(昇任時の異動を含む)

(校長の校種間異動数の推移)

校種	年度	平成 30 年度	平成 29 年度
	小 → 中		16
中 → 小		24	25
小中 特別支援		4	8
合 計		44	52

ウ 教育委員会事務局や他市町の学校からの人事異動の推進

学校の教育課題解決のため、行政経験を生かした学校運営が図れるよう、校長採用者 205 名のうち、県教育委員会、市町教育委員会等から計 46 名を採用した。また、管理職としての幅広い経験を生かすため、市町間での校長の転任数は 14 名、校長への採用数は 12 名となった。

区分	年度	平成 30 年度	平成 29 年度
	教育委員会事務局等からの採用	県教委から	5
市町教委等から		41	33
計		46	36

区分	年度	平成 30 年度	平成 29 年度
	市町を越えた異動	市町を越えた転任者数	14
市町を越えた昇任者数		12	12
計		26	22

エ 若手の登用

51 歳以下の校長 9 名を登用した。最年少は 49 歳の 1 名(㊟51 歳)校長登用者の平均年齢は、55.0 歳となった。

(若手の校長登用者)

淡路市立浦小学校長へ	: 高鍋 謙二郎 (49)	洲本市洲本第二小学校教頭から
尼崎市立武庫北小学校長へ	: 桑野 光枝 (50)	尼崎市立尼崎北小学校教頭から
尼崎市立園和北小学校長へ	: 濱口 真由美 (50)	尼崎市立浜田小学校教頭から
尼崎市立武庫庄小学校長へ	: 横山 智恵子 (51)	尼崎市立立花南小学校教頭から
西宮市立高須西小学校長へ	: 舩橋 博美 (51)	西宮市立深津小学校教頭から
宝塚市立小浜小学校長へ	: 紀谷 貴美子 (51)	宝塚市教育委員会学校教育室課長から
宝塚市立末広小学校長へ	: 安井 健二 (51)	県立人と自然の博物館生涯学習課長から
丹波市立前山小学校長へ	: 堀 博文 (51)	丹波市立崇広小学校教頭から
南あわじ市立三原志知小学校長へ	: 山田 高嗣 (51)	南あわじ市立賀集小学校教頭から

オ 女性の登用(教頭を含む)

女性校長を32名、女性教頭を39名、計71名を登用した結果、在職者数は校長118名、教頭152名となり、女性管理職の新規登用数は昨年同数であるが、総数は昨年より13名の増加となった。

(管理職の女性登用状況)

職名	年度		平成 30 年度		平成 29 年度		増 減		参考⑤
	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	
校 長	118/ 856 (32)	13.8%	105/ 859 (23)	12.2%	+ 13 (+ 9)	+1.6%	13.1%		
教 頭	152/ 862 (39)	17.6%	152/ 863 (48)	17.6%	± 0 (- 9)	0.0%	12.5%		
計	270/1718 (71)	15.7%	257/1722 (71)	14.9%	+ 13 (± 0)	+0.8%	12.8%		

()は当該年度女性登用者数

④ 新規採用教員

今年度924名の採用となった。(29996人)

(新規採用教員の状況)

採用年度	市町立学校 (特別支援含む)	県立学校(中 等・特別支援 含む)	養護教諭	栄養教諭	合計
30	655	229	27	13	924
29	701	251	30	14	996
28	756	333	30	15	1,134
27	821	327	50	12	1,210
26	879	349	32	13	1,273
25	878	369	38	11	1,296
24	849	366	39	8	1,262